

## 専門職大学院における実務家教員支援に関する考察：

授業評価と教員信念との葛藤の視点から教育の質を捉える

Struggles of MBA teachers with careers in the targeted subjects  
between teaching beliefs and students' satisfaction

at the Quality Teaching

豊田 香：Kaori Toyoda

東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻生涯学習基盤経営コース

Graduate School of Education, Department of

Lifelong Education Planning, The University of Tokyo

key words: 専門職大学院 実務家教員 授業評価 葛藤 教師教育

### 目的

本研究は、専門職大学院の実務家教員が、社会人大学院生からの授業評価を受け、教育信念と学生満足の間で葛藤が起き、意識を変容させるプロセスを可視化する。実務家教員が直面する問題点をあらかじめ予測し、教員教育プログラムを開発することで、より高い質の教育を提供するための視座を提示することが研究目的である。

### 方法

HSS（歴史的構造化サンプリング）に基づき、200X年4名の専門職大学院教員（30～50代、男女各2名）に反構造化インタビューで「専門職大学院教員として授業を行い、初めて授業評価を受けた時、その評価をどう受け止め、どのような行動をとったか」を中心に約一時間質問した。

### 結果

「教授法に関する知識が少ないまま見よう見まねで教壇に立つが、辛辣な授業評価を受け、見直しを迫られる。FDは名ばかりで自己の信念で授業を行うが、現役ビジネスマンの学生の方が、知識が新しく深いことも多々ある。上から目線の教育姿勢を根底から見直す必要を痛感し、自己改革に励む。」という姿が浮き彫りになった。

### 考察

授業評価への改善取り組みを教員の自己責任に留めず、訓練プログラムなどの制度化や支援を充実させる必要がある。また、実務家教員と成人学習者双方が、「成人学習の場に向き合う姿勢」に関して具体的に意識改革を進めることが、実務界に有する実務知を大学で有効活用するためには必要であろう。